



福岡県立大学広報

Fukuoka Prefectural University

Kendai

magazine 2021 春号

no.30



Contents

卒業証書・学位記授与式	P2
成績優秀者	P3
就職活動奮闘記	P4
授業参観ウィーク / 学長懇談会	P5
TOPICS	P6~8
教員研究紹介	P9
サークル紹介	P10
退職教員の紹介 / 校医退任	P11



卒業証書・学位記授与式

令和3年3月17日(水)、学部260名、
大学院17名の計277名に
卒業証書・学位記が授与されました。



▲式辞を述べる柴田学長

柴田洋三郎学長は式典の中で「卒業式を、英語では「Commencement 始まり」と呼びます。つまり卒業はゴールではなく、まさにこれからがスタートであり君たちの新たな門出、旅立ち、挑戦です。どうか日々新たな気持ちで、その時々遭遇する艱難、辛苦を乗り越え、常に己を磨き、素晴らしい玉となって光り輝くことを願っております。」と、はなむけの言葉として Adversity makes a person wise.「艱難汝を玉にする」をお贈りしました。

また、成績優秀者として、公共社会学科の坂本 優莉明さん、社会福祉学科の大堀 悠さん、人間形成学科の砂原 里南さん、看護学科の米盛 満里菜さん、波多野 可純さん、大浦 希香さんの計6名の卒業生が表彰されました。

今年は、新型コロナウイルスの感染予防のため、卒業生、修了生、教職員のみで執り行い、式典の様子は学科等ごとに分かれた教室に中継して行われ、各教室で卒業生一人一人に卒業証書・学位記が授与されました。



各教室での授与の様子



人間社会学部 公共社会学科
坂本 優莉明

福岡県立大学で過ごした4年間は、とても充実した貴重な時間でした。講義やゼミなど、これまでとは一変した勉強の仕方に戸惑うこともありましたが、親身かつ丁寧に教えて下さる先生方や共に学ぶ友人達のおかげで、その全てが確かに自分の力になったと感じています。

大学入学時からの夢であった公務員になることができたのも、この大学で学んだことがあってこそです。公共社会学科で学ぶ社会学の考え方や理論は作文や面接試験、集団討論で役立ちました。

このような経験を積ませてくださった先生方や友人、家族には感謝しかありません。実り多く楽しい4年間でした。これからは公務員として頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。



人間社会学部 社会福祉学科
大堀 悠

4年間の学生生活では、授業、実習、アルバイトやボランティア等を通して、沢山の学びを吸収することができました。特に、福祉を学ぶことで得られた知識や出会いに、専門職として、ひとりの人間として、自分がどう在りたいかということは何度も考えさせられました。

つらく苦しいことも多かったです。立ち止まるたびに私と向き合い続けてくださった友人や先生方のおかげで、少しずつでも前進することができています。また、いろんな感情を共有しながら私に掛けてくださった言葉は、今も私の支えです。

当たり前ではない日々や周りに居てくださる方々を大切に、感謝を忘れず、いつまでも謙虚に生きていきます。本当にありがとうございました。



人間社会学部 人間形成学科
砂原 里南

福岡県立大学で過ごした4年間、日常生活に加えて、サークルやボランティア活動、語学研修、アルバイト等を通じて、多くの人との出会いがありました。そして、その中で得た多くの経験は、私の視野を広げ、私を成長させてくれるものとなりました。

この1年、新型コロナウイルスの感染拡大により、変則的なことが増え、受験勉強や卒業論文執筆などに多くの制約がありました。これらの困難を乗り越える力をくれた友人や先生、家族に深く感謝しています。

春からは大学院に進学し、心理専門職を目指して学びを深めていきます。大学で得た経験や人との繋がりを大切にしながら、目標に向かって邁進していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

成績優秀者

として表彰されたみなさん



看護学部 看護学科
米盛 満里菜

振り返れば、長いようであつという間の大学生活でした。これから学ぶ後輩の皆さんは、人の命、人生を預かる看護という分野だからこそ、ぶつかる壁もあると思います。そんな時は、先生方や県大の職員の方々、同じ道を志す仲間とぜひ頼ってください。看護は1人で行うものではありません。患者さんだけでなく、自分自身もまた看護の対象であることを忘れず、健康な心と身体で笑顔の絶えない学生生活を送ってほしいと思います。指導にあたって下さった先生方、共に学んでくれた同級生の皆さん、4年間本当にありがとうございました。



看護学部 看護学科
波多野 可純

この4年間は多くの課題、実習、就職活動など日々目の前のことをこなすことで精いっぱいでしたが、その分とても充実した学生生活でした。実習では患者さん、指導者さん、そして先生方など本当に多くの人の協力があり、自分のやりたい看護を見つけることができました。実習や卒業論文などじっくり丁寧に指導して下さった先生方と、いつも支えてくれた家族と友人には心から感謝しています。

勉学以外にもアルバイトやボランティアで地域の方と関わることで、人と関わることの楽しさを再認識しました。卒業後は支えてもらった恩返しができるよう、向上心を持ち続けながら努力していきます。4年間本当にありがとうございました。



看護学部 看護学科
大浦 希香

福岡県立大学で過ごした4年間はとても貴重な経験となりました。

看護実習において患者様と直接関わることで、自分に足りない部分に気づくとともに、多くの悩みを抱え苦しむこともありましたが、先生方に助けていただきながら人一倍努力をすることで、大きく成長することができました。また、困難な場面とともに乗り越えながらも、学生生活の楽しみを共有できる多くの友人に出会えたことは幸せです。

母の協力や奨学金など経済的なサポートを受けることで学業に専念することができました。私を支えてくださった皆様から感謝するとともに、大学生活で得た経験を活かし今後も努力していきます。4年間本当にありがとうございました。



人間社会学部 公共社会学科

田口 峻也

内定先

株式会社大分銀行

就職活動を始めたのは3年生の6月で、何をしたらよいのか右も左もわからない状態でした。そんな自分を救ってくれたのは、支援班の方や共に頑張ってきた友人でした。その中で、支援班の方から教わったことで皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、「就活の軸」を定めることです。「就活の軸」という意味が掴みづらいかもしれませんが、私は就職活動において「絶対に譲れないもの」と捉えていました。私の場合、「地元大分で働く」、「地域貢献したい」でした。就活の軸が定まったことで、どのような仕事をしたいという方向性が自ずと決まりました。

私は、4年生の6月に就職活動が終わりました。今思えばあっという間でしたが、それは一生懸命やり遂げたからだと思っています。うまくいかないときや心が折れそうなときもあると思います。そんな時は身近な人を頼って1人で悩まないようにしてほしいです。就職活動中だからといって変に固くなりすぎず、気分転換を忘れずに後悔のないように取り組んでください。

春からは社会の一員として働くこととなりますが、自分自身を誇れる立派な社会人を目指して頑張ります。



人間社会学部 社会福祉学科

阿比留 綾夏

内定先

社会医療法人 共愛会

私は2年時の経験型実習と3年時の相談援助実習を、急性期の病院でさせて頂き、医療ソーシャルワーカー(MSW)として働きたいと考えていた為、早期から学校の求人をこまめにチェックし、自分に合った就職先を探し、興味のある所には積極的に見学に行ったり、リモートの説明会を受けたりしました。就職活動と同時期に卒業論文の提出や社会福祉士国家試験の勉強も行わなければならなかったのですが、とても大変だったのですが、無事4月から、社会医療法人共愛会でMSWとして働かせて頂けることになりました。対策としては、キャリアサポートセンターにて面接の練習をして頂いたり、過去の先輩の就職活動の記録を見て情報収集を行ったり、ゼミの先生や学生支援班の方から筆記試験のアドバイスを頂いたりしました。

4月から自分がMSWとして現場で働くというのはとても不安がありますが、日々成長していけるように努力を怠らず、精一杯頑張りたいと思います。



人間社会学部 人間形成学科

永田 青空

内定先

北九州市役所

私は、大学入学前から公務員を志望していましたが公務員の職種さえ知らなかったため、まずは公務員の全体像把握に努めました。心理専門職も考えましたが、より幅広い業務を扱えることから行政枠に決めました。2年次には、学生支援班の方に相談するなど「勉強法の確立」を行い、3年生になり本格的な筆記試験対策を始めました。辛い日々でしたが友人と勉強会を行うなどモチベーションを維持した結果、第一志望の北九州市役所から内定をいただくことができました。

就職活動を通じて、ただレールの上に乗って流れに身を任せるのではなく、目標を達成するために、達成時期から今を逆算して、あとどれくらい時間があるのか、今何をすべきか、誰に頼るかを考えて行動することの大切さを学びました。

長い学生生活が終わりを迎え、春から社会人となります。描いた社会人像とは異なる日々になるかもしれませんが、北九州市職員としてチャンスを頂いたからには、日々感謝を忘れず精進したいと思います。



看護学部 看護学科

寺原 沙也加

内定先

福岡大学病院

私は福岡の病院で看護師として働きたいと考えていたものの、コロナの影響で病院説明会もなく、インターンシップにも行けないまま、ゼロから就職活動がスタートしました。まず病院を決めるにあたって、マイナビで情報を得たり、先輩から話を聞くことから始めました。そして、自身の目指す看護師像に一番近い病院は何かを照らし合わせ、受験する病院を決めました。それからは先輩の就職活動記録や、実際にその病院に勤めている先輩の話を聞き、問題集を解くなどして対策を行いました。就職試験の期間は、実習中であり思うように時間が取れず大変だったのですが、キャリアサポートセンターの方や先生、周りの仲間のサポートもあり、内定を頂くことができたのだと思います。

4月からは社会人としての自覚を持ち、大学病院の看護師として、患者様の為によりよい看護を提供出来るように頑張っていきたいと思っています。

授業参観ウィークを実施しました

令和3年1月5日(火)から1月8日(金)に、高校生や教員が授業を見学できる「授業参観ウィーク」を実施しました。

この「授業参観ウィーク」は、大学の授業参観を通して、教授法や教材等について優れた取り組みを見出し、自分の授業に取り入れていくことで授業改善につながることを目的として行っています。

また、地域の高校生たちにも参加していただき、授業参観を通して高校生のそれぞれの未来像の具体化と、将来のキャリア形成の道筋になることも期待して行っています。

今年は新型コロナウイルスの感染対策のため、オンライン授業も授業参観の対象とし36名の方にご参加いただきました。今後とも地域との連携はもとより、教員相互の授業参観を通して、より良い授業づくりに努めてまいります。



学長懇談会を開催しました!

令和3年1月13日(水)学長懇談会を行いました。
学長懇談会は、学生との交流を大切に考える学長の意向から、毎年1回学長と学生自治会が意見交換を行う場として開催しています。



懇談会には、学長、事務局職員、学生自治会の役員等が出席し、学生から募集した要望を伝えました。今回は、「学内に更衣室を設置してほしい」、「時間割を早く発表してほしい」、「トイレに芳香剤を設置してほしい」など様々な要望があり活発に意見交換されました。

学長懇談会は、学生の日ごろの大学への思いや困ったことを知るとともに、より良い大学にするため大学側(事務局)にとっては、貴重な機会です。中には応えることが難しい要望もありますが、懇談会は相互の考え方を交換し合うことによって現実的な対応をさぐる手立てとなり、既に改善した要望もあります。

学生からいただいた意見や要望には真摯に向き合い改善に努力していきたいと思っております。

田川市市民活動感謝状を いただきました!

令和2年11月4日(水)

田川市市民活動感謝状贈呈式が行われました。

この感謝状は、田川市で15年以上活動しているボランティア団体に対し、感謝の意を表するため、田川市より贈呈されたものです。

受贈者

- 市民榮譽賞……個人の部 2名
- 市民活動部門…個人の部 9名
- 市民活動部門…団体の部 24団体

のうち本学からは、

- **つくしんぼ** (昭和56年設立)
市民活動部門 団体の部 社会福祉分野
- **けんけつち** (平成6年設立)
市民活動部門 団体の部 社会福祉・保健衛生分野
- **ハンドポスト** (平成10年設立)
市民活動部門 団体の部 社会福祉分野



の3サークルが感謝状をいただきました。

後日、各部長より柴田洋三郎学長へご報告し、各サークルの活動状況、コロナ禍での活動状況や学生達の様子についてお伝えしました。

このような機会を設けてくださった田川市に感謝し、今後の励みとしてボランティア活動を続けてまいります!



TOPICS
02

「第1回 福祉体験セミナー」を 令和2年11月25日(水) 開催しました!

田川市社会福祉協議会の職員さんを講師に迎え、本学学生を対象としたセミナー『第1回 福祉体験セミナー ～ 車いす・白杖体験を通してバリアフリーについて考えよう ～』を開催しました。

受講した学生らは、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局が作成したアニメーション動画『「障がい」とは何だろう』を見たあと、車いす体験と白杖体験をおこないました。

実際に体験することで、普段は気にならないもの(通り道に溜まった落ち葉など)も車いすや白杖を使用している方にはバリアになることに気づきました。

どんなものがバリアになり、自分には何ができるか考えることが大切だと学びました。

障がい者は社会が作ったバリアにより、困りごとを多く経験しています。

想像力を働かせ、ひとりひとりが自分にできることを考え、行動することが大切です!



TOPICS
03

本学訪問を実施しました! 令和2年12月3日(木)

福岡海星女子学院高等学校の生徒24名の皆さまを本学へお招きし、模擬授業体験や学内を見学する本学訪問を実施しました。

この本学訪問は、入試広報活動の一環として大学の雰囲気や講義を高校生に体験してもらうことを目的として実施しているもので、今回の模擬授業は、「論理的に読む・書くを体験してみよう!」をテーマとして、看護学部の石田教授に授業を行っていただきました。

新型コロナウイルス感染予防のため、時間や場所が制限された中での実施となりましたが、参加した生徒からは「いつも受ける授業と違って興味深かった」「論理的に考えて書くことをしたことがないので貴重な経験ができた」「時間があっという間だった」などの感想をいただき、生徒たちは大学の雰囲気や授業を体験できたようでした。福岡海星女子学院高等学校の皆さまありがとうございました。



認知症サポーター養成講座を 開講しました！

令和2年12月2日(水)



田川市地域包括支援センターの職員さんを講師に迎え、「認知症サポーター養成講座」を開講しました。

33名の学生が受講し、認知症の症状や認知症の方と接する時に心がけるポイントなどについて学びました。

まず始めに、認知症についてのDVDやパワーポイントを使って講話いただきました。

次に、実際に起こり得る場面の劇を見て、受講した学生らは、「自分ならどのように対応するか」考え、発表しました。

講座が終了すると、受講した学生全員が「認知症サポーター」の証であるオレンジリングを受け取りました。

受講した学生からは次のような感想を聞くことができました。

認知症と思われる方への声かけなど学ぶことができたので、いつか実践する時がきたら、今日学んだことを活用したいです。

楽しく認知症について学ぶことができました。町中で声をかけるのは難しいことかもしれないけど、力になりたいと思いました。

認知症サポーターの輪がもっと広がって、認知症の方が住みやすい町になればいいなと思いました。

立正佼成会からの 寄附金をいただきました

このたび、立正佼成会様からのご厚意により新型コロナウイルス感染防止対策を目的として寄附金をいただきました。本学として感謝の意を表するため、立正佼成会田川教会の教会長様と総務部長様をお招きし、令和2年12月8日(火)に感謝状を贈呈しました。

構内には、消毒液や検温所を設置しマスクの配布も行っておりますが、新型コロナウイルスに対して不安を持っている学生は多くいます。学生が少しでも安心して大学生活を送れるよう、新型コロナウイルス感染防止対策に寄附金を活用させていただきます。立正佼成会様に心より感謝申し上げます。



助産師の実践を活かし、 妊娠・出産・育児期にある女性と その家族や、不妊に悩む人々に対する 支援の研究を行っています。

看護学部 女性看護学/大学院 助産学領域 石村 美由紀



■ 妊娠・出産・育児期にある女性とその家族に対する支援

妊婦教室「マタニティサロン ムーン」を主催し、妊娠・出産・育児期にある女性とその家族に対する支援を積極的に行っています。この教室は、一般的な知識提供型の妊婦教室ではなく、妊婦さんが自分や赤ちゃんをゆっくり見つめる時間をつくり、妊婦さんの「産む力」赤ちゃんの「生まれる力」を体感して頂けるような教室です。企画・運営するのは、助産学領域の教員と助産学生です。出産後には同窓会もあり、妊娠中から産後までの継続した支援を行っています。

この教室を通して、妊婦は自分の心身や胎児にしっかりと向き合い、胎児とのつながりを感じます。そして自らと胎児の力を信頼し、命を育てている自分のありのままを受け入れていきます。妊婦さんと赤ちゃんの持つ力は本当に素晴らしいです。



▲マタニティサロン最終回での集合写真



▲からだ喜び食を五感で感じながらいただく



▲日本生殖看護学会にて



不妊のおしゃべり会ちらし▶

■ 不妊に悩む人々に対する支援のあり方

不妊に悩む人々は、医療に関する悩みのみならず、不妊特有の深刻かつ複雑な苦悩を抱えていることが多いため、支援は医療、行政、社会など様々な角度から考えることが重要です。しかし現時点では、支援する側（医療、行政、不妊自助グループなど）の連携がしっかりと取れているとは言い難く、不妊を取り巻く支援環境が不妊に悩む人々のニーズを満たすに至っていないことが予測されます。そこで、不妊に悩む人々を対象に不妊支援に対するニーズを調査し、行政が担う不妊専門相談センターを有効活用した不妊支援システムを構築することを目的とした研究を行っています。同時に不妊の体験を話し共有する会（不妊のおしゃべり会）を定期的で開催し、その支援的効果も明らかにしています。

サークル紹介

運動系

護身空手サークル

こんにちは、護身空手サークルです。
私たちは週一回、月曜日に活動しています。
部員数はまだまだ少ないですが、それぞれ異なる魅力をもった部員が集まっており、毎週楽しく練習をしています。
護身空手サークルでは、自分の身体を使って身を守る術を学ぶことができます。

護身空手と聞くと、「難しそう…」「大変そう…」と感じる方もいるかもしれませんが、しかし、危険を察知してその場を回避するという行動も、立派な護身術です。

技術や気合いも大切ですが、護身空手をやる上でまず土台となるのは自身の健康です。
野菜をよく食べ、よく寝ることが大事です！

また、大きな声を出して突いたり蹴ったりするので、練習終わりの爽快感がすごいです！護身空手を通して、私たちの身体は作られていきます。

自分の身を自分で守っていくため、私たちと一緒に、楽しみながら護身空手を学びませんか？

経験者はもちろん、初心者も！現在は女子部員が多いですが、性別問わず歓迎致します！気になる方は一度練習を見に来てください！お待ちしております(*^^*)

部長 人間社会学部 人間形成学科 甲斐田 茉那



護身空手
サークルへ
ようこそ！



文化系

軽音 サークル

福岡県立大学万屋

こんにちは、福岡県立大学万屋(軽音サークル)です。
万屋では現在、部員が約50名以上おり、色々な学年や学科の人が関わり合いながら楽しくサークル活動を行っています。

活動としては月に1回ペースで新歓ライブや秋興祭でのライブ、クリスマスコンサートなどを企画し、みんなで好きなバンドを演奏して盛り上がっています。
ライブをする中でたくさんの人とバンドを組んだり、一緒に練習をしたりするので、そこから先輩や友達と仲良くなることができて大学生活がより一層充実したものになると思います。また、自分の知らなかった音楽の世界に出会えるのも魅力です。

今後の目標としては、去年新型コロナウイルスの影響で思うようにライブが行うことができなかったため、今年は感染対策をしっかりと上でライブをひとつでも多く開催し、みんなで楽しむことができればいいなと思っています。経験者はもちろん、初心者の方も大歓迎です。先輩の中でも大学から初めて楽器を弾いたり、バンドを組んだりしたという人の方が多いです。ぜひ気軽にライブを見に来て下さい。そして、万屋に入ってみんなで一緒に音楽を楽しみましょう。

部長 人間社会学部 社会福祉学科 森永 翔



Play a Song
Music!!



退職教職員のご紹介



吉村 静男
事務局
常務理事兼事務局長



鳥越 郁代
看護学部
大学院看護学研究科
教授
女性看護学
助産学



吉武 由彩
人間社会学部
講師
福祉社会学
地域社会学



江上 史子
看護学部
助教
老年看護学



別城 佐和子
看護実践教育センター
助教
糖尿病看護

田中校医へ感謝状を贈呈しました。

本学の校医である田中校医が令和3年3月末に退任されるため、令和3年1月21日(木)に感謝状を贈呈しました。

田中先生には、開学以来、本学の学校医をお引き受けいただき、学生の心身の健康と保持増進のためご尽力いただきました。そのご尽力に対し、深く感謝の意を表するため柴田学長より感謝状を贈呈したものです。

29年間もの長きに亘り、本学学生の健康と成長を見守ってくださりありがとうございました。



福岡県立大学 寄附のお願い

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実を図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の実施に活用されますが、用途を指定することもできます。

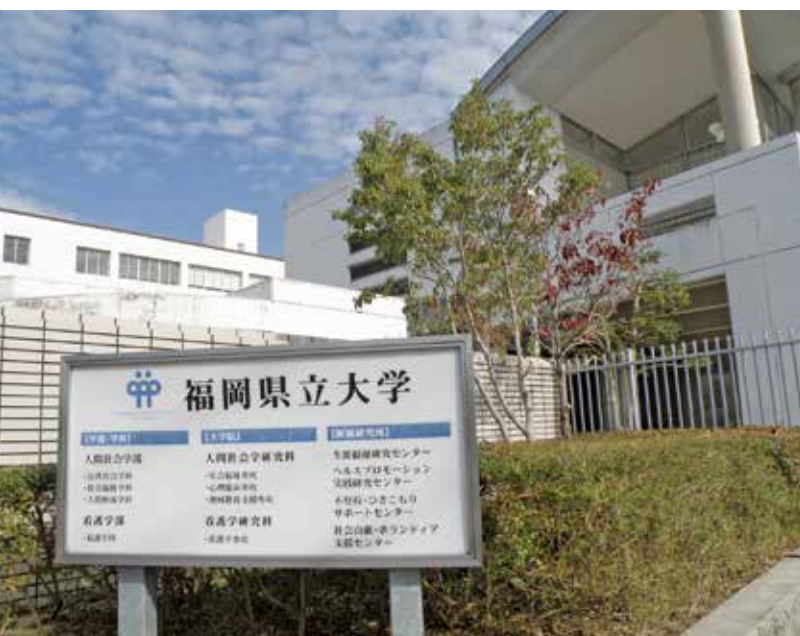
皆様方からの格別のご協力とご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

■ご寄附のお申込み方法

「福岡県立大学」のホームページに詳細をご案内しておりますのでご確認ください。下記の連絡先にお問い合わせ願います。

■連絡先

経営管理部総務財務班 TEL 0947-42-2118



Kendai
magazine
Fukuoka Prefectural University

2021春号
No.30

- 発行 福岡県立大学
 - 所在地 福岡県田川市伊田4395
 - 電話 0947-42-2118
 - 編集 学務部 教務入試班
- <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/>

